

泌尿器科

前立腺癌に対するロボット支援 腹腔鏡下前立腺全摘術開始しました！

泌尿器科部長 原野 正彦
Harano Masahiko

当院泌尿器科では、前立腺癌に対する根治治療の一つとして前立腺全摘術を行っています。できるだけ低侵襲な手術をめざし、これまでも内視鏡補助下小切開前立腺全摘術を行ってきました。本年度、ロボット支援装置“ダヴィンチ”＜Fig1＞が導入され、さらに低侵襲で安全なロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術を8月から開始いたしました。

Fig.1 “ダヴィンチ”ロボット手術支援装置

サージャンコンソール



3Dビデオカメラ



たパーシェントカート、電気メスやモニターのついたビジョンカート・3Dビデオカメラなどからなります＜Fig1＞。

パーシェントカート



この“ダヴィンチ”と呼ばれる手術装置は、術者が操作するサージャンコンソール、患者様の手術台に設置しカメラや鉗子を装着するアームのつ

このロボット支援手術は、通常の腹腔鏡手術を、術者が手術台から離れたコンソールから鉗子やカメラを一人で操作して手術を行うものです＜Fig.2＞。術者が見る画面は3Dの立体画像であり、とても高精度なリアルな画像を見て手術を行います。また、カメラも術者が操作するため、手術操作部位にかなり近接して手術を行うことができます。よって、通常見ることのできない骨盤内深くの解剖を確認することができるので、より正確で安全な手術が行えます。出血部位や血管も容易に確認できるため、止血がしやすく、出血はほとんどありません。従来、出血に備えて自己血貯血を行っておりましたが、この手術ではその必要はなくなりました。

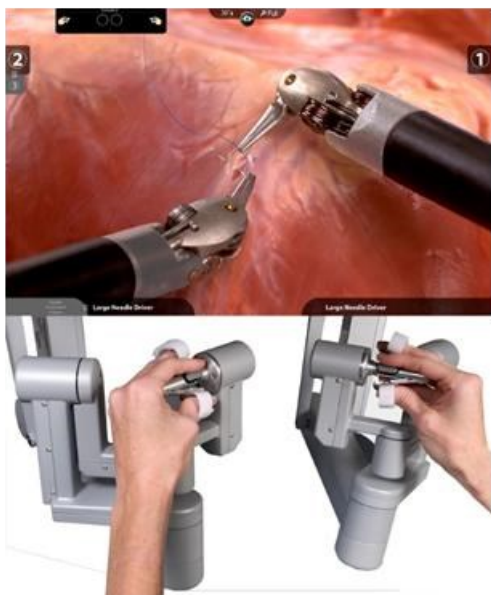
Fig.2 手術風景



また、ダヴィンチの鉗子は多関節鉗子であり、私たちの手の動き以上に回転し動かすことが可能です。つまり、腹腔鏡手術では難しい縫合手技が、どの方向、どの角度からも比較的簡単に行うことができます。前立腺癌の手術では、尿道膀胱吻合という縫合手技が必要になりますが、従来の手術より精密

に縫合することができます<Fig.3>。このことは、術後尿失禁の軽減に貢献します。また、手術の創についても通常の腹腔鏡下手術と同様の小さな創のため、手術後の痛みも軽度です。

Fig.3 多関節鉗子



当院では、この“ダヴィンチ”が導入され、医師・手術室看護師・臨床工学士からなる“ロボット手術チーム”を立ち上げ、より慎重に、安全に注意して手術を行ってきました<Fig4>。おかげさまで、この2か月間で、13名の方にこの手術を行い、特に大きな合併症などなく経過しております。手術の時間も当初5時間ほどかかりましたが、現在では3時間程度で終わるようになりました。今後もさらに

症例を積み重ね、安全に最大限注意しながら、より短時間に手術を行なえるように研鑽を積みたいと思っております。何かございましたら、泌尿器科外来までご連絡ください。

Fig.4 ロボット手術チーム

